

日本語学会 2020 年度春季大会予稿集 正誤表

大会開催中止により、今大会では、発表時の予稿の修正アナウンスが行われないことを勘案し、期日を設けて発表者に正誤表の作成を認め、学会ホームページに掲載することとした。

A-1 上代における助詞モと希望表現の共起について

小池俊希

・ 1 ページ 33 行目

【誤】 …という分類をしており、希望表現と共起する助詞モについては、「実現を期待される…

【正】 …という分類をしており、「実現を期待される…

・ 8 ページ 23 行目

【誤】 日本古典文学大系 (『古代歌謡集』)

【正】 日本古典文学大系 (重複するものは『古代歌謡集』を優先した)

B-3 「1ミリもない」考

榎橋 比早子

・62 ページ5行目

【誤】 考えたり思ったりすること事態を

【正】 考えたり思ったりすること自体を,

B-4 テキストの結束性の記述 — 「辞書は新しいのがいい」構文の主題 X 名詞句に注目して—
石原佳弥子

・ 66 ページ 13 行目

【誤】 BCCWJ より

【正】 現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下「BCCWJ」と呼ぶ) より

・ 68 ページ 10 行目

【誤】 基準 を用いて

【正】 分類方法 を用いて

C-4 動名詞の名詞述語文「VN+だ」の意味用法をめぐって

石 立珣

・104 ページ下から 3 行目

【誤】例 (7、9-12) の「五時、この秋、明日、来年」である。

【正】例 (7、9-11) の「五時、この秋、明日、来年」である。

・110 ページ 22 行目

【誤】例えば、(58)

【正】例えば、(57a)

C-5 動詞に含意されない副詞的表現の結果状態解釈の成立
難波えみ

・112 ページ表 2 2 行目

【誤】 薄く 53

【正】 薄く、うすーく 54

D-3 階層によるラ行五段化の通方言的一般化 —九州方言を中心に—
宮岡 大

・ 138 ページ 16 行目

【誤】 否定非過去と意志形ラ行五段化を引き起こす一方、

【正】 否定非過去と意志形がラ行五段化を引き起こす一方、

・ 138 ページ 28 行目

【誤】 意志形と否定形だけがラ行五段化に関与する九重町方言は、

【正】 意志形と否定形がラ行五段化に関与し、命令形と過去形はラ行五段化に関与しない九重町方言は、

P-16 丁寧体過去形式「～ましたです」の動向 —「国会会議録」過去 72 年分のデータから—
神作晋一

・ 240 ページ 30 行目

- 【誤】 神作晋一（2020）（印刷中）「丁寧体否定形式「～ませんです」の動向—国会会議録検索システムを例に—」『論集日本近代語研究 1』勉誠出版
- 【正】 神作晋一（2020）「丁寧体否定形式「～ませんです」の動向—国会会議録検索システムを例に—」『論究日本近代語 第 1 集』勉誠出版

P-18 雑談における母語話者と非母語話者の笑いの使用傾向の分析

— 『BTSJ 日本語自然会話コーパス 2018 年版』 を用いて —

宇佐美まゆみ・張未未

・ 249 ページ表 6 の注(1)

【誤】 () は、笑いのタイプ別の頻度と割合を示している。

【正】 () は、タイプ別の笑いの頻度が「①発話時の笑い」の総数に占める割合を示している。

・ 249 ページ表 6 の注(2)

【誤】 [] は、笑いの各機能ごとの母語話者、非母語話者の頻度と割合を示している。

【正】 [] は、笑いの各機能ごとの母語話者、非母語話者それぞれの割合を示している。

・ 249 ページ表 7 の注(1)

【誤】 () は、タイプ別の頻度と割合を示している。

【正】 () は、タイプ別の笑いの頻度が「①発話時の笑い」の総数に占める割合を示している。

・ 249 ページ表 7 の注(2)

【誤】 [] は、各機能の母語話者、非母語話者の笑いの頻度と割合を示している。

【正】 [] は、笑いの各機能ごとの母語話者、非母語話者それぞれの割合を示している。